

県央土木総合事務所



県央土木総合事務所は築46年が経過し、老朽化が著しく建て替えの時期を迎えていた。また平成16年度の土木事務所の再編・見直しにより、管轄区域が変更され区域の南端に位置していた。

本計画は、以上の問題を解消するために、管轄区域の中心部となる金沢市直江地区に移転・改築し、同時に県央農林総合事務所及びその他施設との合築を行い、行政サービスを向上させるものである。



エントランス



執務スペース



配置計画： 本建築は、執務空間を主とした東西に長い庁舎棟と車庫や倉庫を主とした南北に長い車庫倉庫棟をL型に配し、日射による熱負荷に対して有利な配置・形状としている。

外観計画： 庁舎棟南面には、日射による熱負荷を軽減しながら、柔らかい拡散光を内部に入れる環境調整装置として、2～4階の壁面にプレキャストコンクリートの庇と袖壁を取付け、さらにその中間にグレーチングの水平ルーバーを入れることで光をコントロールしている。東西面にはアルミパンチングメタルスクリーンやルーバーを設けて角度の低い日射を遮っている。また玄関のある日射の影響が少ない北側にはカーテンウォールを用い、最大限開口としている。南北に長い車庫倉庫棟は極力開口を制限し、熱負荷を軽減しながらも倉庫然とならないよう開口部の配置によって表情をつくっている。

執務スペースの配置計画： 来庁舎の利用しやすさや家具レイアウトのフレキシビリティを考慮し、室と廊下の間仕切りを設けないオープンフロアとしている。

県産材の利用： 県央農林総合事務所や農林業公社が入居していることもあり、エントランスホールや廊下、会議室などの床・壁・天井の仕上にスギや能登ヒバを積極的に採用し優しさや温もりのあるインテリアに努めた。

DATA
⑥業務事業施設
金沢市直江南2丁目地内
平成29年9月～平成31年2月
庁舎棟
鉄骨造：地上4F
延床面積6,080.88㎡
車庫倉庫棟
鉄骨造：地上3F
延床面積2,220.47㎡
合計 8,301.35㎡